

長崎県観光動向調査 (令和2年4～6月分)

● 主要指標

令和2年4～6月

	対象 施設	延べ宿泊客 利用者数	R2-R1 同期比	
			増減率	増減数
主要宿泊施設	180	314千人	▲ 76.3%	▲1,012千人
主要観光施設	27	250千人	▲ 85.8%	▲1,512千人

	主要宿泊施設 客室稼働率	前年同期比 (ポイント)
4～6月累計	28.3%	▲ 36.5
4月	20.3%	▲ 42.4
5月	22.8%	▲ 48.0
6月	42.9%	▲ 17.7

● 概況

- 主要宿泊施設の宿泊客数は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出等により旅行需要が大幅に減少したこと、また、その影響により宿泊施設の休業や航空路線及び JR 等の運休・減便が相次いだことから、4月が対前年同月比▲80.4%、5月は対前年同月比▲86.8%にまで落ち込み、6月は5月25日の緊急事態解除宣言や6月から開始した県民向け宿泊割引キャンペーン等により、5月から29.1ポイント改善するなど持ち直しの動きが見られたものの、4～6月期は、平成19年の調査開始以来最大の減少率であった今年1～3月期から更に悪化し、対前年同期比▲76.3%となった。
- 主要観光施設の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出等により、多くの施設が4月から5月にかけて臨時休館を余儀なくされたことから、4～6月期は対前年同期比▲85.8%と、主要宿泊施設と同様に調査開始以来最大の減少率を更新した。あぐりの丘や弓張岳、雲仙仁田道などの屋外型施設は、屋内型施設と比較すると減少幅は小さい結果となった。

ブロック別の主な増減要因

【長崎・西彼ブロック】

緊急事態宣言の発出等により旅行需要が大きく減少したことに加え、春のシーズンであった修学旅行も延期・中止が相次いだことから、4～6月期の宿泊客数は対前年同期比▲79.8%となった。

【佐世保・西海・東彼・北松ブロック】

新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴うハウステンボスの休園によりハウステンボスエリアの多くの宿泊施設が休業を余儀なくされたことなどから、4～6月期の宿泊客数は対前年同期比▲84.3%となった。

【平戸・松浦ブロック】

旅行需要の減少により平戸地区において多くの宿泊施設が休業を余儀なくされたこと、緊急事態宣言の発出等により松浦地区において宿泊キャンセルが相次いだことなどから、4～6月期の宿泊客数は対前年同期比▲67.4%となった。

【諫早・大村ブロック】

6月は緊急事態宣言が解除されたことにより回復の兆しが見られたものの、4月、5月が新型コロナウイルス感染拡大の影響により旅行需要が大幅に減少したことから、4～6月期の宿泊客数は対前年同期比▲43.3%となった。

【島原半島ブロック】

6月は県民及び市民向け宿泊割引の実施により5月から大幅に持ち直したものの、4月、5月に多くの施設で臨時休業が相次いだことなどから、4～6月期の宿泊客数は対前年同期比▲71.5%となった。

【五島ブロック】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により宿泊施設の臨時休業が相次ぎ、6月はビジネス客需要の回復等により持ち直しの動きが見られたものの、4～6月期の宿泊客数は対前年同期比▲74.7%となった。

【壱岐ブロック】

6月は県民及び市民向け宿泊割引の実施により5月から大幅に持ち直したものの、団体・ツアー客の宿泊キャンセルが相次いだことなどにより、4～6月期の宿泊客数は対前年同期比▲75.6%となった。

【対馬ブロック】

昨年7月以降の韓国観光客の入込減に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う旅行需要の減少により、4～6月期の宿泊客数は対前年同期比▲83.9%となった。

【参考】外国人観光客（宿泊客）の動向

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、3月9日以降、多くの国が日本における査証の無効化や検疫強化の対象となったこと等により、訪日外国人客がほぼゼロの状態となったことから、4～6月期の外国人宿泊客数は、今年1～3月期から更に悪化し、対前年同期比▲96.7%と、平成20年の外国人客調査の開始以来最大の減少率となった。

(参考資料)



